

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894400064		
法人名	カネカツ株式会社		
事業所名	グループホーム暖家		
所在地	兵庫県豊岡市城崎町今津787-1		
自己評価作成日	2012年6月12日	評価結果市町村受理日	2012年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2012年6月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今まで過ごされてきたごくあたりまえの暮らしを継続していただき、その人らしく暮らしていただけるよう支援したい。看護師を配置し、健康で楽しい生活をしていただけること、またご利用者の気持ちを受入れ、日々安心して暮らしていただけるよう、スタッフ一同努力したいと思っています。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は日本海に近く、四季の彩りがまじかに感じられる山間に立地し、利用者のこれまでの生活を継続しつつあたりまえの生活を送れる暖かいホームを目指している。職員は利用者一人ひとりの個性と生活スタイルに今の身体状況を丸ごと受け入れ、支援者としてだけでなく家族のように暖かく寄り添っている。時間の経過とともに、利用者にとっての避けられない状態低下や疾病などから徐々に出来なくなることが増し、あたりまえの生活の継続が困難な状況に直面しながらも、職員はさりげない心くばりに徹し、見守りに努めている。それは利用者のその人らしい自然な営み、穏やかな表情からもうかがわれ、職員だけでなく、利用者同士も暖かく見守り合っている。今年度、看護師の協力のもと、より安心できるサポート体制が整備されたことをうけ、職員の連携強化に向けた記録の徹底、柔軟な計画作成に取り組まれることが早急な課題であろう。利用者と家族、職員、そして地元住民みんなの暖かい我が家となることを応援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて日々向上心を持ち業務に取り組んでいる。まだまだ理念そのものがしっかりと浸透していない現状にある。	法人理念として、自由で自然に楽しく暮らせることを大事にした暖かい家を目指している。職員は利用者一人ひとりの尊厳を守ることを重視し、特に言葉かけには注意して実践に努めている。その結果利用者との信頼関係が深まり、自然な関わりから、利用者の理解につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々と挨拶を交わしたり、ご利用者と一緒に建物の周辺を散歩することで近隣の方にご利用者の顔を覚えていただける様努力している。	地域の行事案内に応じて希望の利用者を募り、出来るだけ参加している。日常的な近隣の散歩や買物など、挨拶を通じて顔馴染みの関係をつくるようにもしている。花見は恒例となっており、利用者の楽しみとなっている。車椅子利用の人の気軽な外出は難しいのが現状である。	事業所主催の行事等を検討され、地域住民と双方向の交流機会を持たれてはいいかがか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	城崎地域包括ケア会議に2ヶ月に1度参加している他、豊岡市の独居老人における「高齢者見守りネットワーク」の協力事業所になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成21年4月より2ヶ月に1度定期的に会合を持ち、グループホームの現状について報告し、意見については検討、実施している。	事業所は、今年度より広報誌を発行して行事報告や利用者の様子等を報告している。利用者からは食事に関すること、家族からは生活状況などの話しが出される。地域包括職員からは地域の実情や市からの情報提供があり、参加者には参考となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊岡市高年福祉課、城崎地区包括支援センターとの協力体制、連携はしっかり保たれている。	制度内容や改正等、あらかじめ情報提供もあり、普段から情報交換を行っている。グループホーム連絡会を通じて気軽に相談できる機会もあり、協力関係は確保されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望や他のご利用者の居室に入り、トラブルが発生することがあるため、必要に応じて玄関、外窓、居室の戸に施錠することがあるが、ご利用者の安全確保のための手段となっている。	玄関等の施錠は、利用者の状態に応じてやむをえず行っているが、日常的に花や野菜の水やりや手入れなどの機会を持つなど、外に出るよう心がけている。職員は会議内で拘束等について学んでいるが、今後は外部研修にも積極的に参加していくことを検討している。	利用者の中には、外に出る機会が少ない人もいられるので、閉塞感を少しでも軽減するための工夫を検討されることを期待したい。

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	できるだけ職員同士が複数で介護に関わりお互いを監視している。特に意思表示やコミュニケーション困難なご利用者への虐待がないよう注意を払っている。尚、虐待を目撃した場合は直ちに上司に報告することと、日誌等に記録するようにしている。	利用者への関わり方が、少数の特定職員にならないよう複数による対応を心がけ、職員間で連携を図っている。常に利用者の尊厳を意識するよう努めている。会議内で、利用者個別のケアについては共有、確認しているが、さらに理解を深める研修が必要と考えている。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市社協の「福祉サービス利用援助事業」の契約者があり、制度を活用しているが、職員が制度について学習する機会には設けていない。	現在、制度利用の該当者はいるが、職員は制度内容等の理解にはまだ至っていない。活用事例を通じて、学ぶ機会を検討していく考えである。	地域包括職員や社協にも協力を仰ぎ、制度内容の理解、さらには活用推進にも努められることを望みたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約では、重要事項説明書、契約書について、また、重度となられた場合のことなど、十分に説明して納得を載している。	契約にあたり、自宅訪問により利用者の生活環境や様子を観察し、本人、家族とは十分に話し合うことで不安を無くし、納得を得よう努めている。本人の健康状態や服薬、費用等については、特に丁寧に情報収集している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に伺ったご意見は職員間のミーティングで検討している。また、必要に応じご家族にご利用者の生活の様子、健康面などを報告している。	家族来訪時や面談の際に、こちらから利用者の状況報告を通じて、意見や要望を出してもらうよう働きかけている。運営推進会議出席の利用者からは食事内容について、家族代表者からは個別の要望が多く、職員間で共有し、反映に努めている。	毎月の家族個々への職員からのメッセージを活かして、意見をもらう機会を工夫されてはどうだろうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会が持っている。財源や人員を伴う内容があるが、以前に比べ少し余裕を持って計画的に反映できるようになってきている。	職員から、会議等で積極的に意見や提案が出され、以前に物品購入の要望があり反映した。職員の意見や提案が表せる機会を重視するとともに、職場環境にも反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	僅かではあるが、給与水準の引き上げと、ボーナス支給が実施され職員環境が少し向上した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	城崎地区包括支援センター企画の「楽ちん介護法」の勉強会に、介護職員4名、看護師1名、計5名が参加。今後も内外の研修の充実について検討して行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	城崎地区包括ケア会議に参加していて、同業者同士の交流や意見交換があるが、ネットワークづくりや相互の訪問はない。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者と楽しく会話し、食を共にし、ご利用者の要望に耳を傾け、可能な限り要望が叶えられるよう日々努力している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族の気持ちや要望についてよく聞くように努めていることから信頼関係が少しずつではあるが深まって来ている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される時に、ご本人、ご家族と面接し、必要なニーズの把握に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普通の人として自然に関わることで、お互いの立場を理解し合い良い関係が成り立っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族が共同し、ご利用者を支えることができるよう、面会の際お話をしながら、良い信頼関係が作れるように努力している。	
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会は難しい現状だが、ご家族や知人の面会が途切れないよう、連絡等を欠かさないようにしている。今後個々のニーズを取り入れた外出を実施したい。	地域のお祭りなどのビデオを観て昔のことを思い出し懐かしむ機会を設けたり、普段の会話からこれまでの生活等を語ってもらっている。現状利用者から要望が上がることが少ないが、思いをさらに汲み取り把握していきたいとしている。職員からは個別の要望として、例えば墓参り等の外出の提案があった。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置を工夫するなどし、ご利用者同士の人間関係が良好に保てるよう努力している。	

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院して退去された方が再入居されるなど、必要があればフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望や意向を把握するよう努めている。食べたいもの、したいこと、趣味等、いつも耳を傾けている。	利用者との信頼関係を深めるためにも、寄り添うことが利用者の理解につながると考えている。そのためには、職員一人ひとりの利用者への接し方が大事であり、特に、1対1での関わりを重視している。収集した利用者の情報は、職員間で共有している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、サービス機関やご家族から状況を把握している。また、可能なご利用者からは直接生活歴を伺うこともしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に予めご本人やご家族、関係機関より情報を入手している。心身の状態は入所後に看護師が把握し管理・指導している。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼での職員間の打合せや、ご利用者の引き継ぎ、面会時にご家族と調整をしながら介護計画を作成している。	担当職員が中心となり利用者の日常観察や状態を把握し、計画作成担当者が原案を作成、家族にも相談しながら意向を反映させている。定期的なカンファレンスや職員間での利用者の状態把握、共有についての記録が不十分といえる。	早急に、記録の整備を図られるとともに、職員間の共有のための体制づくりにも努められたい。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や業務日誌に日々の様子をわかりやすく記録し、職員間で共有している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までご自宅で生活されていた通りの基本的な生活を送っていただくことが主体であり、個々のニーズに応じるところまでサービスを多機能化させない。引続きの課題である		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花見や地域の祭りには積極的に参加しているが、社会資源の活用にはまだ至っていない。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が入居前の主治医への受診を希望される場合は入居前の主治医とさせていただきようとしているが、近くの協力医院との関係も大切にし、敏速かつ適切な医療が受けられるよう支援している。	以前のかかりつけ医との関係を大切にしているが、遠方からの入居者が多いため受診にくい状態にある。近所の協力医との連携が図られていて、緊急時にも柔軟に対応できている。交通の便の悪いところにあるため、協力医を介してドクターヘリを要請したこともある。	受診時の情報提供や、医師からの指導を記録するための文書の様式を検討してみたいかがか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が平成24年6月7日より新規採用となり、医療面での相談業務や薬の管理、ご利用者の病院への受診付添をしている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、看護師を通して病院やご家族と連絡を密にするようにしている。	入院時は看護師や協力医が情報交換に努めている。規定では「1ヶ月入院した場合退所」ということになっているが、柔軟に対応している。仮退院中の方が居られるなど、医療機関との連絡を密にし、早期退院に向けて良好な関係づくりがなされている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、あらかじめご家族に「重度化対応・終末期ケア対応指針」の用紙の内容に基づいて丁寧に説明し、承諾していただいている。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」という文書を入所時に提示・説明し承諾を受けている。医療的に難しい方、感染症の方など対応できない要件はあるが、地域のネットワークを活用し支援できるよう、協力医の助言のもと取り組もうとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一年に二度、防災避難訓練にあわせて、救急対応の訓練を行うようにしている。（今年は4月の初旬に行っている。）		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・災害を想定した避難訓練を年に二回実施している。	年2回避難訓練を実施し、消防署立会いの元、夜間想定、避難経路確認、誘導訓練等を実施している。地域の方との協力体制はまだ充分とはいえないが、近隣地域の避難場所としての役割が今後の課題と考えられる。	避難訓練の参加を呼びかける、などを運営推進会議で検討されてはいかがか。

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには配慮している。プライバシーについてはミーティング等で話し合いを度々行っている できるだけご利用者の生活スタイルを損なわないよう注意している	言葉遣いや態度等についてはミーティング等で常に話し合っている。利用者が人生の先輩として誇りを持って会話等を楽しめるように、言葉かけや対応に配慮している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者それぞれの思いが表出できるような人間関係ができています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の個別ごとの生活のペースは尊重されている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の好きな服装は自分で選んでいたり、化粧をされる方もおられ、自由に身だしなみを楽しんでいただいている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員一緒に食事を楽しんでいる。状況に応じてスタッフと一緒に食事の準備や片付けをしている。可能なご利用者は茶碗拭きをされている。	「今日何食べようか？」という会話から始まる。買物に行ける人は減ったが、週3回一緒に行っている。利用者は皿ふき、下膳等を手伝っている。手で食べている人もいるが、その人なりに自然体で食事を楽しんでいる。1人ひとりの居心地の良さを支援する、穏やかな雰囲気作りがなされている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や栄養のバランス考慮した献立を考えているが、充分とは言えずまだまだ検討が必要である。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。 歯科衛生士の免許を有するスタッフがおり、いつでも指導を受けることが可能である。		

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表に24時間体制で記入し、検討・実施している。	排泄記録をとり検討しているが、本人の意思や習慣を尊重し、ゆったりとした暮らしの中での排泄支援を心がけている。オムツは家族が持参するか、事業所が紹介する業者から、その方に合ったものを直接購入している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ野菜をよく摂る献立を考えているが、飲食物の制約は特に行っていない。昼食前に軽い体操をしたりしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者一人週に二回の入浴を実施している。	浴室は家庭風呂に近いものである。車椅子の方等はシャワー浴、または2人対応で浴槽に入ってもらっている。拒否される方についてはスタッフを代えて気分転換を試み入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に午後より、その人の状況に合わせて休息していただいている。特に夜間徘徊のご利用者においては、夜間不安にならないよう、声かけしたり、一緒に過ごしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師だけでなく、介護職員は薬の内容について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅生活でしておられた趣味や役割をそのまま活かしておられる方も一部あるが、今後、もっと多くのご利用者が生き甲斐が持てるよう、支援して行きたい。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	限られたお元気なご利用者だけ時々ご家族の方と外出される。スタッフが買い物に行くとき、時々2名のご利用者が一緒に買い物の補助で出かける。その他のご利用者は外出は難しい現状である。	利用者のADLの低下等により、外出支援が困難になってきている。窓を開けて、太陽が差し込む窓辺でくつろぐとか、施設の前の広場で談笑するとか外気に当る工夫をしている。1～2人程度での外出なら可能なので、管理者は今後個々の希望に添った外出支援をしたいと思っている。	個別の外出支援が可能になるように、利用者の希望を把握する工夫を期待したい。

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少し前まではお金を所持し、自己管理のもとで買い物をされる方が物忘れが進み自己管理が不可能となった。したがって現在はお利用者全員の所持金をお預かりし職員が管理している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望により事務所で電話の取り次ぎをしている。手紙のやりとりをされることもある。	
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	人間関係のバランスを重視したデイルームの席の配置に心がけているとともに、生活感漂う空間にすべく努力している。	廊下は広く、全体に明るくゆったりとしていて、家庭的な調度品が置かれている。縫い物の得意な方が作ったものを使用したりしている。デイルームにはダイニング椅子しかないので、ゆっくりくつろげるリビングソファを置くことを計画中である。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者自身の場所がある。気の合う人と一緒にになれるように配慮している。	
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者やご家族には、今まで使い馴染んだものを心置きなく入れていただくよう、入所時にお話している。	居室スペースも広い。ベッドは施設のものだが布団は使い慣れたものを持参している。テレビ、ホームゴタツなども馴染みのものを持ち込んで、ゆっくりと過ごせるよう配慮されている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今まで暮らして来られた環境との差異は大きいと思われることから、戸惑われたり、孤独感を持たれないよう、スタッフがそばにいて早く慣れていただくようにしている。	